２０１６年度活動方針

2014 年に制定された「信州山の日」に続き、今年から 8 月 11 日が「山の日」（国民の祝日）となります。山が、年齢を問わず、様々な形で注目されてきたことは、喜ばしいことです。しかし、その反面、残念ながらそれと比例するように遭難事故も増加の一途を辿り、それに対する社会的な風当りは厳しくなってきています。今や我々長野県山岳協会も、自分たちが好き勝手に登山だけをしていればよいとはいえなくなってきている現状があります。そんな中で、昨年長野県登山安全条例が制定され、県内の指定山岳における登山については、罰則は伴わないものの、登山届けの提出が義務化されました。安全登山の普及啓発を目的に掲げる山岳協会として、登山に対する規制はなじまないながらも、届けの提出については当然のことと考え、一般向けに啓発をしていくことには異論はありません。

山好きが集まって作ってきた任意団体として、我々自身の登山の充実や足元の山岳会の活性化を根本に据えながら、加盟団体、会員の皆さんの連携を深め、未組織登山者にも長山協の活動を広くアピールする長山協の活動を進めていきたいと考えています。

支部、委員会それぞれが様々な事業を計画していますが、せっかくのよい企画であっても参加者集めに苦労している企画もあります。もう一度原点に立ちかえり、何のためにやるのかを明確にした上で、山岳協会全体の活性化や協会員相互の連携が図れるような活動にしていきたいと考えています。支部活動の活性化、委員会活動の活性化、ひいては協会活動の活性化へとつなげ、多くの仲間とともに山を楽しめるような活動を展開していきたいと思います。

そのために関連する委員会の連携を今まで以上に密にし、効果的かつ効率的な事業実施を検討し、委員会活動の活性化についても研究検討を行います。具体的な方策として、今年度も年度の早い時期に一斉委員会を開催し、委員会活動の活性化を図ります。こうしたつながりと同時に、長山協キャンプやウインターミーティング、雪山交流会、長山協ミーティングなどの単一の山岳会を越えた諸事業を、重要な技術研修、懇親の場と位置付けて、充実を図っていきます。

今年度の大きな動きとしては、中国西蔵登山協会との 30 周年記念事業の具体化に向けた動きと北信越国体の長野開催の 2 つがあります。来年度友好協定締結 30 周年を迎える中国西蔵登山協会との間では、2017 年に記念事業を行う方向で話が進んできていますが、今年度は具体化に向けて、動き出します。また、本年 7 月には小谷村で北信越国体を開催しますが、中信支部を中心に、協会全体として成功に向けて取り組んでいかねばなりません。

多くの方々のご協力で実現した山岳図書資料館の運営も一昨年度から具体化しています。山岳文化の殿堂として、協会員の皆さんの意見も参考にしながら、一層使い勝手のよい施設となるように育てていきます。

指定管理者としての 2 期目の山岳総合センターは、長山協単独で運営を始めましたが、「山岳に関する研究、調査と健全な登山の教育事業の場」である山岳センターを、協会の社会還元の重要な柱と位置付けて運営をしていきます。しかし、ガイドや登山用具店などが講習会を行うことが増えており、競争相手となることも予想される中、そのような状況でも安定して運営を継続できるよう体質を強めていくことが必要です。

また、「トイレ」などの山岳環境をめぐる諸点についても、登山者の団体である長山協の果たせる役割を考えながら、適切な対応をするとともに、長山協として存在意義をアピールできる取り組みをしていきたいと考えています。6 月に松本市で開催される「登山医学会」と、同じく 6 月に長野市でネパール復興支援の目的で行われる「シタールと合唱の夕べ」を後援します。

登山の普及・技術の向上・啓発活動

支部による夏山登山教室のさらなる充実に努めます。

山岳総合センターの運営に参画し、様々な機会を捉えた正しい登山の普及を推進し、併せて協会員への還元を促進します。

自然保護と登山者の果たすべき役割、共生のための一定の方向性を導き出す活動を関係機関とも協議しながら推進します。
2009 年度から取り組みを始めた山のトイレ問題や野生生物と山岳環境についての学習などを通して、更に踏み込んだ状況把握に努め、その方向性を探ります。
ジュニア層の育成を考え、クライミングジム等との連携や登山を通じた自然体験など幅広い活動を具体的に推進するとともに、高体連登山部や学校登山への支援について検討を行い、将来の登山愛好者育成に繋げることを考えます。
安全登山の観点から事故事例に学び共有することにより、遭難事故防止に努めます。
中高年登山者への安全登山の普及、未組織登山者の組織化等、最近顕著になってきている現状をしっかりとみつめ現実的な対応を研究していきます。
2013 年度より導入した個人会員制度の拡充を図ります。
「ＳＰＯ$_2$データ収集」、「やまなみへの寄稿」、「山のセミナー講演」等、登山者の立場に立った医科学委員会での研究の展開を進め、協会員への普及を促進します。

競技登山

7 月に行われる北信越国体の成功と成果にむけて協会をあげて取り組みます。
競技部とジュニア委員会が連携をとりながら選手の発掘と育成に取り組み競技力の向上に向けた支援を行います。
競技部と指導委員会が連携して 2008 年度から実施された国体種目変更に対応する組織形態の確立、審判員などの育成に努めます。
スポーツクライミングがオリンピック種目候補となったことや国体監督資格との絡みでＳＣ指導員資格を増やさねばならないことが今後予想されますので、指導員会と連携して具体的方策を探ります。
ジュニア層の選手登録について、次世代育成の観点から援助をします。
近年、さかんになってきたトレールランニングについてどのように対応すべきか、検討をします。

国際登山・国際交流

国際登山をめぐる厳しい情勢の中で協会員の国際登山実施のために、組織的な研究、工夫、努力をします。
長年培ってきた国外の山岳団体との企画等を通じ、交流を深めます。
2017 年度に締結 30 周年を迎える中国西蔵登山協会との間で行う記念事業について具体化に向けて実行委員会を立ち上げ、動きはじめます。

事業部

新たな課題、例えば日山協特別共済への対応方針等を他の委員会との連携により研究検討し、長山協の行うべき事業の方向性を研究していきます。
山のセミナー、長山協ミーティングについては、原点に帰って検討を加え実質的な催しとなるよう進めます。
「信州の山の日」の 3 年目、「山の日」の施行にあたり、長山協としてできる取り組みを実施します。

事務局（総務・財務・やまなみ・ホームページ）

やまなみとホームページのそれぞれの特性を活用した情報発信の実施に努めます。
紙ベースの情報と電子データを併用しながら、効率的な情報伝達に努めます。
ホームページの充実、適切な情報更新のための方策を検討し、実施します。
支出節約と収入の確保に努めた財務運営を継続します。

山岳図書資料館

「山岳図書資料館」について、山岳図書資料館運営委員を中心に大町市と協議してよりよいものとなるよう協力をしていきます。

山岳総合センター

指定管理 2 期目の「長野県山岳総合センター」を 1 期目の経験を生かしながら、山岳総合センター運営管理部員を中心に、更に高いレベルの活動ができるよう取り組みます。